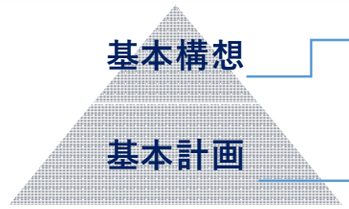
第六次宮崎市総合計画基本構想（素案）概要版

宮崎市総合政策部企画政策課
令和６年４月

序章　計画策定に当たって

1　計画の構成・・・第六次宮崎市総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成します。
2　計画期間・・・「基本構想」及び「基本計画」の計画期間は令和７（2025）年度から令和16（2034）年度までの10年間とし、「基本計画」は社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じ適宜見直しを行うものとします。

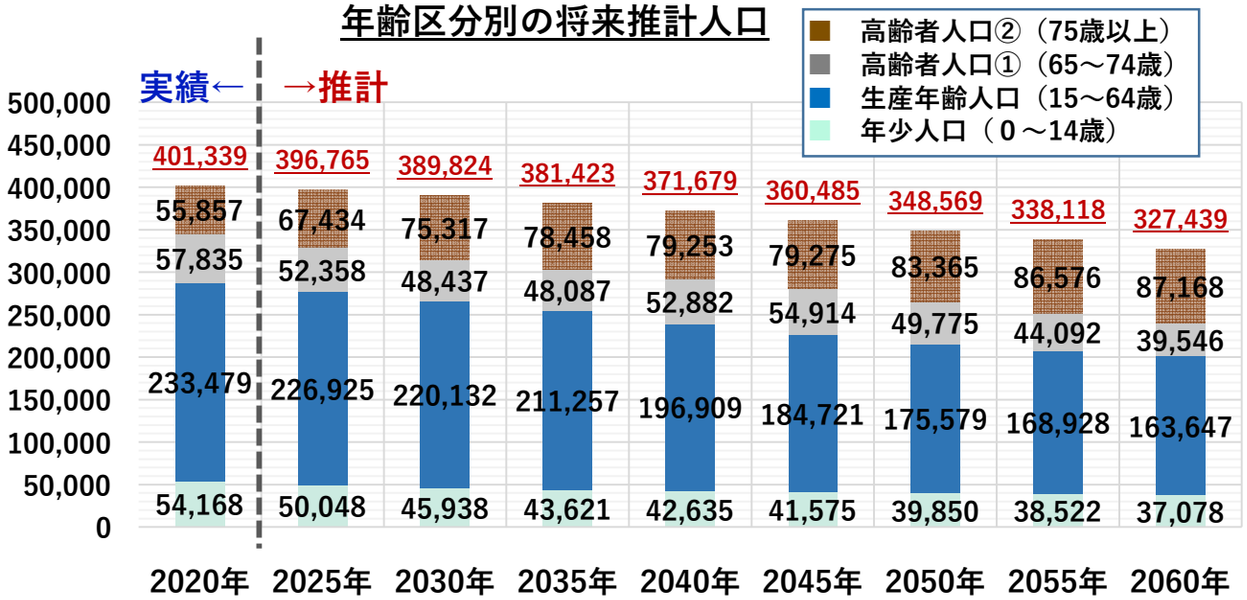


【基本構想の主な構成】
- 将来の展望
- 将来の都市像と目指すまちの姿
- 行財政運営の基本的な方向性

【基本計画の主な構成】
- 計画体系と横断的な視点
- 政策・施策
- 重点プロジェクト
- 進行管理

第１章　将来の展望（人口の見通し・将来への課題）

年齢区分別の将来推計人口



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）」
（注１）各年10月時点
（注２）2055年及び2060年の数値は、2020年から2050年の人口動態の傾向が継続すると仮定し、国立社会保障・人口問題研究所の資料を参照のもと、本市にて推計を実施

【対2020年比】

2040年	2060年
高齢者人口②（75歳以上）41.9％増	高齢者人口②（75歳以上）56.1％増
高齢者人口①（65～74歳）8.6％減	高齢者人口①（65～74歳）31.6％減
生産年齢人口（15～64歳）15.7％減	生産年齢人口（15～64歳）29.9％減
年少人口（0～14歳）21.2％減	年少人口（0～14歳）31.5％減

■　人口減少、少子高齢化がもたらす地域社会への影響

地域経済への影響（例）
【産業・雇用】
経済規模の縮小、労働力不足等

市民生活への影響（例）
【医療・福祉】
要介護・認知症の高齢者の増加、福祉を担う人材不足等
【地域】
地域活動の担い手不足、地域の防犯力や防災力の低下、空き家の増加による生活環境の悪化等

将来世代への影響（例）
【子ども・子育て・教育】
教育環境の変化、
保育や子どもの居場所づくりに関するニーズの多様化等
【行財政運営】
社会保障費の増加、税収の減少等

■　地域経済の変化
■　気候変動への対応・自然災害の発生
■　グローバル化の進展
■　デジタル化の進展・価値観の変化

第２章　将来の都市像と目指すまちの姿

▶みんなで描く、宮崎市の「将来の都市像」

挑戦し、成長する　開かれたまち
～ OPEN　CITY　MIYAZAKI ～

- 寛容で温かい、開かれたまちづくりを推進するとともに、本市の将来を担う若者に選ばれるまちを目指します。
- 人口減少・少子高齢化に起因する様々な課題の解決に向け、積極果敢に挑戦し、更なる発展を図ります。

▶経済

▶目指す姿１　都市（まち）として目指す姿（経済の姿）
「時代の変化を見据えて成長し、世界に開かれているまち」
- ヒト、モノ、カネ、情報が集まる経済都市として、その門戸が常に開かれているまちを目指します。

【主な分野】経済・産業・雇用・都市基盤・総合交通

▶ひと

▶目指す姿２　市民一人一人が目指す姿（ひとの姿）
「多様性を認め、互いに支え合う　みんなに開かれているまち」
- 多様な価値観を認め合いながら、人々が生きやすいと感じられ、誰一人取り残さない社会が実現されるまちを目指します。

【主な分野】健康・医療・福祉・共生社会・市民活動

▶未来

▶目指す姿３　10年後の、その先へ向けて目指す姿（未来の姿）
「明日への希望にあふれ、未来に開かれているまち」
- 未来を担う子どもたちが健やかに育ち、持続可能な形で発展し続けるまちを目指します。

【主な分野】子ども・子育て・教育・環境・防災

第３章　行財政運営の基本的な方向性

1　持続可能で開かれた行財政運営　（１）不断の歳出改革　（２）多角的視点による歳入確保　（３）時代に即した組織体制の構築
2　公民連携の推進

SMILE MIYAZAKI